

普及指導員調査研究報告書

課題名 水稲情報提供方法の改善について

長門農林事務所農業部 担当者氏名：河崎慎一郎、窪田勝夫、鳥居俊夫

<活動事例の要旨>

普及指導活動の対象が法人などの担い手にシフトしていることや営農指導員の減少などから活用頻度が下がっている「水稲栽培管理情報」等の有効活用を図るため、新たな2つの伝達方法の試行を行い、当該方法の有効性を確認した。

1 普及活動の課題・目標

(1) 現状

長門農林事務所では、水稲定点調査結果に基づいて水稲栽培管理情報（水稲ワンポイントアドバイス）を調査当日にJA営農センターに提供していた。その後営農センターから各支所等に提供し、集落座談会や講習会、営農指導で活用されていた。

(2) 問題点・課題

水稲栽培管理情報（6月1日から8月11日まで）は8回提供するが、一部の情報以外は営農指導員が活用するだけで、生産者には直接届いていなかった。また、普及指導活動の法人へのシフトや現在のJA営農指導体制では、個別の水稲生産者に対しての情報提供の場が少なく、水稲栽培管理情報が十分活かされていないため、情報提供の新たなしくみづくりが課題であった。

(3) 目標

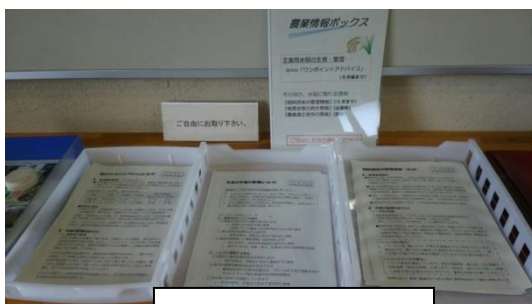
できるだけ労力をかけずに、JAと連携した、多くの水稲栽培者へ情報がタイムリーに伝わるしくみをつくる。

2 普及活動の内容

(1) 新たな情報提供方法の試行

ア 農業情報ボックスによる提供（管理情報のフリーペーパー化）

- JAの支所窓口にボックスを設置し、来所者が自由に持ち帰れる方法



農業情報ボックス

- ・経費は普及協議会より支出
- ・300円/1ヶ所
- ・100円ショップより購入
- ・2段ボックス、平置き可能

- 役割分担
 - ・ 農業部：情報作成及び営農センターへの情報データ送信
 - ・ J A 営農センター：ボックス設置支所担当者への連絡調整
 - ・ J A 支所担当者：情報ボックスの管理（情報の印刷、補充）とボックスの利用促進
- イ FAX及び電子メールを活用した提供
 - 担い手から希望者を募り、直接、情報を伝達する方法
 - 役割分担
 - ・ 農業部：情報作成及び営農センターへの情報データ送信
 - ・ J A 営農センター：希望者募集及び情報配信

(2) 情報提供方法の評価（アンケート調査）

上記の2つの方法と併せて緊急時に活用しているケーブルテレビを使った提供方法を評価した。

3 普及活動の成果

アンケート結果から、新たな情報提供方法と緊急時の情報提供方法が有効であることがわかった。

○アンケート結果の概要

- (1) 農業情報ボックスによる提供
 - ・ 当該提供方法がいい方法だと評価した人 : 92%
 - ・ 提供情報の半分以上を見た人 : 69%
- (2) FAX及び電子メールを活用した提供
 - ・ 次年度から当該方法での情報提供を希望する人 : 70%
- (3) ケーブルテレビによる情報提供
 - ・ 情報を見たことのある人 : 83%
 - ・ 提供情報の半分以上見た人 : 43%
 - ・ わかりやすいと回答した人 : 67%

4 今後の普及活動に向けて

- (1) 農業情報ボックスによる提供
 - ボックス経由の配布部数は、まだまだ少ないため一般水稻栽培者へのPR強化を行う。
 - ・ J A だより、講習会、ケーブルテレビ等の活用
 - アンケート結果に基づく情報内容の改善
 - ・ 病虫害防除、除草剤使用、収穫適期判定等に関する情報
- (2) FAX及び電子メールを活用した提供
 - 提供先の拡大
 - ・ J A と調整の上、広く希望者を募集
- (3) ケーブルテレビによる情報提供
 - 提供する情報の種類の拡大
 - ・ 緊急情報のみでなく、通常時の情報提供など情報種類を拡大
農薬適正使用の注意喚起、台風襲来前の技術対策など